

授業 科目名	事後指導 Post-guidance for Practical Training	履修年次: 必修：栄3年	単位数: 1単位 30時間	担当教員名: 科目責任者 荒井裕介 (研究室:教育棟 A212) 谷内洋子・工藤美奈子 [管理栄養士(全員)]
		実務経験のある教員による授業科目	コード: NT0305	
〔DP〕IV 健康づくりの実践、III 実践に必要な知識、VII 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
<ul style="list-style-type: none"> ・臨地実習の実習内容、研究課題等をまとめ、プレゼンテーションができる。 ・臨地実習を振り返り、自らの今後の目標と課題を考えることができる。 ・実習を踏まえて、専門職としてのあるべき姿について自ら考えることができる。 				
〔授業の概要〕				
<p>臨地実習後はそれぞれの実習施設における実習内容、研究課題報告、さらに実践の場で学んだ事項などを情報交換指導などにおいて総合的な事後指導を行い、校内での学習と臨地実習を有機的に結びつけ、知識と技術の統合に努める。</p> <p>実務経験のある教員により、各分野の臨地実習の振り返りから、管理栄養士を目指す学生自らの目標と課題を考える支援をする。</p>				
キーワード: 臨地実習、省察、プレゼンテーション、管理栄養士、プロフェッショナリズム				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1,2回	11/20	臨地実習のまとめ	臨地実習の振り返り	谷内洋子
第3,4回	11/27	臨地実習のまとめ	報告会に向けたまとめ、準備	荒井裕介他
第5,6回	12/4	給食経営管理臨地実習	実習報告会	工藤美奈子
第7,8回	12/11	公衆栄養臨地実習	実習報告会	荒井裕介
第9,10回	12/18	臨床栄養学臨地実習	実習報告会	谷内洋子
第11,12回	1/8	報告会のまとめ	合同報告会に向けたまとめ、準備	荒井裕介他
第13~15回	2/5	3科目合同報告会	臨地実習3科目合同報告会 (2年生、学科教員参加)	荒井裕介他
履修条件	臨地実習を受ける履修条件を満たした者			
予習・復習	自らの実習内容とその学びを簡潔に発表できるよう、臨地実習ノート等を見直して振り返りをし、まとめておくこと。			
テキスト	臨地実習テキスト、臨地実習ノート(大学作成)			
参考書・参考資料等	適宜指示する			
学生に対する評価	発表・討議(80%)、日頃の学習態度(20%)に評価する			

授業科目名	食生活教育論 Proper Nutrition Education	履修年次: 自由: 栄3年 (教職課程選択者必修)	単位数: 2 単位 30 時間 コード: NTT201	担当教員名: 鈴木 亜夕帆 (A棟 214 研究室)
〔DP〕 倫理観とプロフェッショナリズム、 実践に必要な知識、 健康づくりの実践				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 義務教育諸学校で学ぶ児童、生徒への食に関する指導を行うにあたり、栄養教諭としての食と栄養に関する教育のための基本的、専門的、かつ総合的な知識と考え方を身に付けることを目標とする。 テーマ: 食の歴史と文化。 子どもの食課題。 栄養教諭の役割。 学校給食。 食育の方法。 保護者・地域の連携				
〔授業の概要〕 食生活に関する歴史と文化、栄養教諭の役割と職務内容、学校給食の意義・役割、健康と食に関する課題、子どもの食生活の課題、子どもへの食に関する指導、個別相談指導のあり方を学習する。各種資料・研究結果に基づく資料により食生活教育の役割を、学校給食を「生きた教材」としながら理解し実践する。 キーワード: 栄養教諭、子ども、食生活、給食、健康、食育				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第1回	4/10	ガイダンス、食生活の歴史と文化	何を学ぶか。食生活に関する歴史、文化的事項	
第2回	4/17	幼児・児童・生徒の食に関する事項	食育推進計画、食に関する指導の手引き、社会的事情、法令、諸制度等。	
第3回	4/24	幼児・児童・生徒の栄養の現状	子どもたちの栄養、国民の栄養をめぐる諸事情の理解	
第4回	5/1	学校における栄養教育の必要性	子どもたちの栄養の指導、管理の意義	
第5回	5/8	栄養教諭の職務と役割	栄養教諭の職務内容、使命、役割	
第6回	5/15	学校給食	学校給食の意義、役割	
第7回	5/22	食に関する個別的な指導	アレルギーへの対応、特別な配慮への対応を考える	
第8回	5/29	模擬授業ガイダンス	模擬授業の視点、方法についてのガイダンス	
第9回	6/5	食に関する指導の実際	子どもたちの実態、学校全体の食に関する指導の実際	
第10回	6/12	食に関する指導の実際	栄養教諭による食に関する指導の実際	
第11回	6/19	家庭、地域と連携した食に関する指導	家庭、地域と連携する意義、具体的な方法を考える	
第12回	6/26	子どもたちへの食育の実際	食育の方法の実践例	
第13回	7/3	食育に関する教材、情報	食生活教育を推進する資料とその活用	
第14回	7/10	模擬授業 検討会	給食の時間の食に関する指導の模擬授業・検討会	
第15回	7/17	模擬授業 検討会、まとめ	" 模擬授業・検討会、まとめ	
履修条件		特になし		
予習・復習		予習: 授業で使用する資料の熟読。復習: 課題を含めた振り返り。		
テキスト		「食に関する指導の手引第二次改訂版」東山書房。「小学校学習指導要領(平成29年告示)」「〃総則編」「〃特別の教科道徳編」「〃総合的な学習の時間編」「〃特別活動編」「〃家庭科編」。「中学校学習指導要領(平成29年告示)」「〃総則編」「〃特別の教科道徳編」「〃総合的な学習の時間編」「〃特別活動編」「〃家庭科編」。		
参考書・参考資料等		「日本人の食事摂取基準2020」, 「日本食品標準成分表2020年版(八訂)」他		
学生に対する評価		学習態度(50%)、課題(50%)により総合的に評価。		

授業科目名	食生活教育論 Proper Nutrition Education	履修年次: 自由：栄3年 (教職課程選択者必修)	単位数: 2 単位 30 時間 コード: NTT301	担当教員名: 鈴木 亜夕帆 (A棟 214 研究室)
〔DP〕 倫理観とプロフェッショナリズム、実践に必要な知識、健康づくりの実践				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 栄養教諭課程で学んだことを基礎として、栄養教諭の役割及び職務内容の全体像を理解し、義務教育学校で学ぶ児童、生徒に栄養教諭として授業を行うことができることを目的とする。 テーマ： 栄養教諭としての授業展開、指導内容。 具体的な学習指導案。 学び続ける栄養教諭				
〔授業の概要〕 栄養教諭の役割と職務内容、教材としての学校給食、食に関する指導の年間計画の策定、学校教育と栄養教育、栄養教諭の食育コーディネーターとしての役割などを学習し、個別的な相談指導の計画、模擬授業(学習指導案の作成、相互評価)などを通して、学校における食に関する指導の方法を理解し、指導計画を立てることができることを目指す。 キーワード： 栄養教諭、学校、学習指導案、個別的な相談指導、全体計画、給食				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	
第1回	11/21	ガイダンス。栄養教諭と学校教育	何を学ぶか。栄養教諭としての立場、役割。授業、個別指導。	
第2回	11/28	教育実習の実際	教育実習体験者からの講義等を通して、子どもへの栄養指導及び管理の現状と課題を知る	
第3回	11/28	食に関する「授業」とは	授業を行うということ。学習指導案とは何か。	
第4回	12/5	小学校における授業の実際	小学校教諭による教科を中心とした食に関する指導の実際 【特別講師】	
第5回	12/5	模擬授業ガイダンス 授業の内容を考える	模擬授業ガイダンス。 「どのように学ぶか」を考える	
第6回	12/12	栄養教諭による授業の実際	栄養教諭による食に関する指導(授業および個別指導)の実際 【特別講師】	
第7回	12/12	授業の内容を考える	何ができるようになるかを考える(教科)	
第8回	12/19	授業の内容を考える	何ができるようになるかを考える(特別活動、総合、道徳)	
第9回	12/19	個別的な相談指導	栄養教諭による個別的な相談指導を計画する	
第10回	1/9	模擬授業	道徳、特別活動、総合的な学習の時間の模擬授業	
第11回	1/9	検討会	模擬授業検討会	
第12回	1/23	模擬授業	道徳、特別活動、総合的な学習の時間の模擬授業	
第13回	1/23	検討会	模擬授業検討会	
第14回	1/30	模擬授業	道徳、特別活動、総合的な学習の時間の模擬授業	
第15回	1/30	検討会、まとめ	模擬授業検討会。まとめ	
履修条件	特になし			
予習・復習	予習：授業に関するこれまでの学びを復習。復習：課題を含めた振り返り。			
テキスト	前期「食生活教育論」と同様。(「食に関する指導の手引第二次改訂版」。「小学校学習指導要領(平成29年告示)」及び解説編。「中学校学習指導要領(平成29年告示)」及び解説編。)			
参考書・参考資料等	「日本人の食事摂取基準2020」、「日本食品標準成分表2020年版(八訂)」他			
学生に対する評価	学習態度(50%)、課題(50%)により総合的に評価。			

授業 科目名	教職論 Introduction to the teaching profession	履修年次: 自由: 栄1年 (教職課程選択 者は必修)	単位数: 2単位 30時間 コード: NTT101	担当教員名: 広川由子 (研究室 図書館棟 10)
〔DP〕 .倫理観とプロフェッショナリズム .コミュニケーション能力 .生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業の到達目標は、「教職の意義」「教員の役割」「教員の職務内容」「チーム学校運営への対応」などの事項の理解を通して、教師として必要となる基礎知識を身につけるとともに、教師としての自覚と関心・意欲を高め、自らの教師像を科学的・論理的に説明できるようになることである。				
〔授業の概要〕 本授業では教職の意義及び教員の役割・職務内容について概説しつつ、栄養教諭とは何かを深く追究する内容とする。受講生自身が行う作業やグループディスカッションの機会を多く設け、理解を深めつつ進める。教師・児童生徒・保護者それぞれの立場から多面的に考えることで実践力を養っていく。 キーワード: 栄養教諭、教員免許状、教育公務員、チーム学校、資質・能力観				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	
第1回	10/4	オリエンテーション	授業計画、授業概要、評価方法の説明、栄養教諭の現状	
第2回	10/11	教職の意義	教職の職業的特徴、多職種との比較	
第3回	10/18	教職の意義	教育の今日的動向	
第4回	10/25	教職の意義	公教育の目的、教員の存在意義	
第5回	11/1	教員の役割	教職観の変遷	
第6回	11/8	教員の役割	今日の教員に求められる役割	
第7回	11/15	教員の役割	今日の教員に求められる基礎的な資質能力	
第8回	11/22	教員の職務内容	教員に課せられる服務義務、身分上の義務	
第9回	11/29	教員の職務内容	教員の職務の全体像	
第10回	12/6	教員の職務内容	教員研修の意義及び制度上の位置づけ	
第11回	12/13	教員の職務内容	専門職としての職務遂行、生涯学習	
第12回	12/20	チーム学校運営への対応	学校の役割の拡大化・多様化	
第13回	1/10	チーム学校運営への対応	専門家との連携・分担	
第14回	1/24	チーム学校運営への対応	チーム学校のなかの栄養教諭の位置	
第15回	1/31	教職をめぐる今後の諸課題	本授業のふりかえりとまとめ	
履修条件	教職課程履修者			
予習・復習	予習として配布資料を熟読のこと。復習はレジюме・配布資料にて授業を振り返りつつ、課題・レポートに取り組むこと。			
テキスト	汐見稔幸他(2021)『現代の教師論』ミネルヴァ書房			
参考書・参考資料等	授業内で適宜、資料を配布する。			
学生に対する評価	学習態度(20%)、ディスカッションへの参加(30%)、課題・レポート(50%)による総合評価。			

授業 科目名	教育学概論 Introduction to Pedagogy	履修年次: 自由：栄2年 (教職課程選択 者は必修)	単位数: 1単位 15時間 コード: NTT102	担当教員名: 広川由子 (研究室 図書館棟 10)
〔DP〕 . 倫理観とプロフェッショナリズム . 他職種との協働 . 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業の到達目標は、教育の基礎的概念を習得しつつ、教育思想の系譜をたどり自らの教育観を省察すること、外国と日本の教育史を通して、自らの体験を振り返りながら、現代の教育現場が抱える問題への解決策を見出し、確かな見識がもてるようになることである。				
〔授業の概要〕 本授業は、教育者となるために必要な教育の基礎知識を以下の四つの観点から概説する。第一に教育学の入門として必要となる諸概念と教育の理念・原理について、第二に西洋教育史及び思想の源泉とその系譜について、第三に近世から戦後にわたる日本教育史及び思想の源泉とその系譜について、第四に現代社会における様々な教育課題についてである。受講生自身が作業を行う機会を多く設け、理解を深めつつ授業を進める。				
キーワード: 日本国憲法、教育基本法、子ども観、公教育、教育思想				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第1回	10/3	オリエンテーション	授業計画、授業概要、評価方法の説明	
第2回	10/10	教育に関する思想・歴史(西洋)	教育学の諸概念	
第3回	10/17	教育に関する思想・歴史(西洋)	家族と社会による教育の歴史	
第4回	10/24	教育に関する思想・歴史(西洋)	近代公教育思想の源流	
第5回	10/31	教育に関する思想・歴史(日本)	近代日本における教育制度の成立	
第6回	11/7	教育に関する思想・歴史(日本)	大正・昭和前期の教育の特徴	
第7回	11/14	教育に関する思想・歴史(日本)	戦後日本における教育改革	
第8回 (45分)	11/21	現代社会と今日の教育課題	本授業のまとめ	
履修条件	教職課程履修者			
予習・復習	予習としてテキスト及び配布資料を熟読のこと。復習はテキスト及びレジュメ・配布資料にて授業を振り返りつつ、ノートに内容を整理した後、課題・レポートに取り組むこと。			
テキスト	古沢常雄・米田俊彦編(2017)『教育史』学文社			
参考書・参考資料等	授業内で適宜、資料を配布する。			
学生に対する評価	学習態度(20%)、ディスカッションへの参加(30%)、課題・レポート(50%)による総合評価。			

授業 科目名	教育心理 (Educational Psychology)	履修年次:	2 単位 30 時間	担当教員名: 橋本 和幸 (研究室 A209)
		自由: 栄 2 年 (教職課程選択 者は必修)	コード: NTT103	
〔DP〕 実践に必要な知識, 倫理観とプロフェッショナリズム, 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 この授業では次の 3 点を目標とする。 現代の子どもの特徴や、子どもが成長するために必要とされる事柄を理解し説明できること。 各回の内容から、発達の経過や発達障害等の問題についても理解を深めること。 授業で提示された様々な用語を理解し、他者に説明することができること。				
〔授業の概要〕 学校現場で役立つような心理学の知識や考え方をまとめた「教育心理学」という学問を取り扱う。 教育の問題を心理学的に研究した成果や、その成果によって、教育を科学的・合理的に行うこと、教育の能率を高めることなどを説明する。				
キーワード: 学習、発達、評価、パーソナリティ、適応				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第 1 回	8/16	イントロダクション	授業の進め方や教育心理学が扱う領域を説明する。	
第 2 回	8/16	学習	学習による行動の変化について説明する。	
第 3 回	8/16	記憶	記憶のメカニズムを説明する。	
第 4 回	8/16	動機づけ	やる気が生まれて持続する仕組みを説明する。	
第 5 回	8/16	発達	心身の質的・量的な変化について説明する。	
第 6 回	8/19	発達段階	年齢時期による特徴的な変化の違いについて説明する。	
第 7 回	8/19	発達課題	発達段階ごとに達成する必要がある課題について説明する。	
第 8 回	8/19	知能	知能研究の歴史、知能と学力の関係などを説明する。	
第 9 回	8/19	発達障害	発達の遅れや偏りとそれによって起きる問題について説明する。	
第 10 回	8/19	性格	個人の個性の形成のされ方について説明する。	
第 11 回	8/20	適応	環境に適応する仕組みを説明する。	
第 12 回	8/20	評価	児童・生徒の様子を教員がどのように評価するかを説明する。	
第 13 回	8/20	教授	教員が児童・生徒に働きかける方法を説明する。	
第 14 回	8/20	集団	教員や同級生との関係が、児童・生徒に与える影響を説明する。	
第 15 回	8/20	相談	児童・生徒の問題を支援する方法を説明する。	
履修条件	特になし			
予習・復習	予習: テキストを読み込む。復習: 講義ごとに課題に取り組む。			
テキスト	「教育心理学メモランダム」: 橋本和幸著、ムイスリ出版、2021 年			
参考書・参考資料等	指定しない。授業の中で適宜紹介する。			
学生に対する評価	講義内課題 30%、筆記試験 70%			

授業 科目名	教育制度論 Educational Systems	履修年次: 自由：栄2年 (教職課程選択 者必修)	単位数: 1単位 15時間 コード: NTT104	担当教員名: 広川由子 (研究室 図書館棟 10)
〔DP〕 . コミュニケーション能力 . 多職種との協働 . 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業の到達目標は、教育者になるために、日本の学校や教育行政機関の目的やその実現について、経営の観点から理解できるようになることである。具体的には、公教育の目的、学校経営の望ましい姿、教育活動の年間の流れ、学校評価、学級経営の仕組みと効果的な方法を理解し、教員としての基礎的知識を身につけ、そこにどのような問題があるかを発見し、自ら発信できるようになることである。				
〔授業の概要〕 本授業は、学級経営の理論と方法について概説する。そのうえで、近年、問題となっている、いじめ、不登校、部活動、子どもの貧困、道徳教育、食育、学校事故などの事例を素材とし、社会的、制度的、及び経営的視点から考察する態度を養う。グループ・ディスカッションや学生自身が作業を行う機会を多く設け、理解を深めつつ授業を行う。				
キーワード： 日本国憲法、教育基本法、子ども観、公教育、教育思想				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第1回 (45分)	11/21	オリエンテーション	授業計画、授業概要、評価方法の説明	
第2回	11/28	教育に関する経営的事項	学級経営の理論	
第3回	12/5	教育に関する経営的事項	学級経営の理論	
第4回	12/12	教育に関する経営的事項	学級経営の方法	
第5回	12/19	教育に関する経営的事項	学級経営の方法	
第6回	1/9	学校と地域の連携	地域との連携・協働による学校づくり	
第7回	1/23	学校安全への対応	学校保健安全法、危機管理	
第8回	1/30	教育制度をめぐる今後の諸課題	栄養教諭制度をめぐる今日的課題	
履修条件	教職課程履修者			
予習・復習	予習としてテキスト及び配布資料を熟読のこと。復習はテキスト及びレジュメ・配布資料にて授業を振り返りつつ、ノートに内容を整理した後、課題・レポートに取り組むこと。			
テキスト	田中耕治(2022)『学級経営の理論と方法』ミネルヴァ書房			
参考書・参考資料等	授業内で適宜、資料を配布する。			
学生に対する評価	学習態度(20%)、ディスカッションへの参加(30%)、課題・レポート(50%)による総合評価。			

授業 科目名	カリキュラム論 Curricular studies	履修年次: 自由：栄2年 (教職課程選択 者必修)	単位数: 1単位 15時間 コード: NTT105	担当教員名: 広川由子 (研究室 図書館棟 10)
〔DP〕 .倫理観とプロフェッショナリズム .実践に必要な知識 .生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業の到達目標は、以下の三点である。第一に学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義を理解し、学習指導要領の性格及び位置づけや変遷、その社会的背景について、自らの言葉で説明できるようになること、第二に教育課程編成の基本原則及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解し、教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法を例示することができるようになること、第三に教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解し、カリキュラム・マネジメントについて、自らの言葉で説明できるようになることである。				
〔授業の概要〕 本授業では、学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を概説するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの重要性への理解を深める。その上で、受講生自身が文献購読等において主体的にレポートし、ディスカッションによって内容理解を深めていくほか、共通課題を設定してグループでの課題探究を行う。				
キーワード：教育課程編成、カリキュラム・マネジメント、学習指導要領、カリキュラム評価				
〔授業計画〕				
回数	日付	テ マ	内 容	
第1回	4/11	オリエンテーション	授業計画、授業概要、評価方法の説明、学習指導要領とは	
第2回	4/18	教育課程の意義	教育課程編成の理論と方法	
第3回	4/25	教育課程編成の方法	教科書・教材研究・事例研究	
第4回	5/2	教育課程編成の方法	教科書・教材研究・事例研究	
第5回	5/9	教育課程編成の方法	教科書・教材研究・事例研究	
第6回	5/16	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの意義	
第7回	5/23	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム評価の基礎	
第8回 (45分)	5/30	教育評価の方法	教育評価の意義と方法 本授業のふりかえりとまとめ	
履修条件	教職課程履修者			
予習・復習	予習としてテキスト及び配布資料を熟読のこと。復習はテキスト及びレジュメ・配布資料にて授業を振り返りつつ、ノートに内容を整理した後、課題に取り組むこと。			
テキスト	原清治(2018)『教育課程・教育評価』ミネルヴァ書房 / 『小学校学習指導要領(平成29年告示)』			
参考書・参考資料等	授業内で適宜、資料を配布する。			
学生に対する評価	学習態度(20%)、ディスカッション(30%)、課題・レポート(50%)による総合評価。			

授業 科目名	特別支援教育論 (Education for Individuals with Special Needs)	履修年次	1 単位 15 時間	担当教員名: 斎藤 遼太郎 (非常勤講師室)
		自由：栄3年 (教職課程選択 者必修)	コード:NTT202	
〔DP〕 倫理観とプロフェッショナリズム 生涯にわたる探究心と自己研鑽 多職種との協働				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の到達目標：1. 発達障害等の特性と支援方法について説明できる。2. 特別の教育的ニーズについて、論理的に思考し、他者の意見を聞きつつ、自分の意見を整理し、発表することができる。3. 具体的な場面で、支援方法を活用することができる。 ・ テーマ：1. 発達障害等の特性と支援方法の理解。2. 特別支援教育制度の基本的事項の理解。 				
〔授業の概要〕 小学校等の通常の学級に在籍している発達障害をはじめとする様々な障害により特別の支援を必要とする児童生徒について、各障害の特性や学習の過程と支援の方法について述べる。更に、「個別の指導計画」や「通級による指導」などといった特別支援教育の制度・教育課程の基礎的事柄に加え、障害はないが特別の教育的ニーズのある生徒の学習上・生活上の困難と支援についても述べる。				
キーワード：特別の教育的ニーズ、発達障害、学びの場の連続性、外国籍、貧困				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第1回	6/10	インクルーシブ教育システムの理念と仕組み	授業の概要説明と特別支援教育の目指す方向性	
第2回	6/17	特別支援教育コーディネーター及び関係機関や家庭との連携	特別支援教育コーディネーターと校内委員会の概要説明、関係機関や家庭との連携方法	
第3回	6/24	特別支援教育 教育課程と個別の指導/支援計画	特別支援学級や通級による指導等の仕組み及び自立活動等の教育課程、個別の指導及び支援計画	
第4回	7/1	発達障害のある児童生徒の理解と支援方法	自閉症スペクトラム障害、学習障害、注意欠陥多動性障害の特性と支援方法	
第5回	7/8	軽度知的障害の理解と支援方法	軽度知的障害の特性と支援方法	
第6回	7/22	感覚障害(視覚障害、聴覚障害)の理解と支援方法	視覚障害、聴覚障害の特性と支援方法	
第7回	7/29	肢体不自由及び病弱の理解と支援方法	肢体不自由、病弱の特性と支援方法	
第8回	7/30	特別の教育的ニーズのある児童生徒の理解	母国語や貧困の問題等による特別の教育的ニーズ、授業全体のまとめ	
履修条件	教職課程履修者			
予習・復習	授業で習ったことをレジュメ・資料等で復習すること。			
テキスト	毎回授業時に配付する授業プリント。			
参考書・参考資料等	小学校学習指導要領(文部科学省,平成29年3月)など。			
学生に対する評価	学習態度(30%) 最終レポート(70%)によって総合的に評価する。			

授業科目名	教育の方法と技術 (Teaching methods and techniques in school education)	履修年次: 自由: 栄3年 (教職課程選択者必修)	単位数: 2単位 30時間 コード: NTT203	担当教員名: 井上裕光 (研究室: 非常勤講師控室)
〔DP〕 実践に必要な知識, 倫理観とプロフェッショナリズム, VII 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業者として学習指導する場合に必要な方法及び技術について、その内容と使い分けを理解することができる。(技能) ・ 教育の方法及び技術は、どのような場面でもそのまま利用できるものではないことを把握し、さらに、個別の授業では教師一人ひとりの創意工夫に基づく選択と適用が必要であることを理解し、目の前の子どもたちにふさわしい新たな教育方法を開発していこうとする意欲をもつことができる。(意欲) ・ 学校教育に必要な情報機器、特にコンピュータの操作技術を理解し、情報機器を教具として学習指導等に活用するための基礎的視点と態度を習得することができる。(態度) 				
〔授業の概要〕				
<p>学習形態、指導組織、授業設計と展開、教育メディア活用、学習評価、学習環境等について学校教育現場における学習指導活動を支える実践的な内容とその方法を概観するとともに、それらを活用した模擬演習を試みる。また、授業で情報機器を利用する場合に、目的に応じた使い分けの演習を行う。</p> <p>「教えられる側」から「教える側」になるためには何が必要かを、常に意識することを求める。</p>				
〔授業計画〕 キーワード: 学習指導要領、学習指導要録、学校文化、教育方法とその技術、ねがい				
回数	日付	テーマ	内 容	
第1回	4/9	学ぶことと教えること	一斉伝達方式とその是非、指導と支援	
第2回	4/16	子どもの発達と学び	子どものいる授業といない授業	
第3回	4/23	学習形態と指導組織	グループダイナミクス、チームティーチング(PT)、教科担任制	
第4回	4/30	授業設計と授業過程	教えて考えさせる学習へ、教材の精選と授業過程、	
第5回	5/7	教材・教具と学習環境	教授メディア、活字メディアの活用、物的・人的・文化的学習環境	
第6回	5/14	学習評価	評価と評定、評価規準と基準、様々な評価法、指導要録	
第7回	5/21	授業と授業者のスキル	発問、板書、机間指導、発言のさせ方・扱い方等基本的スキル	
第8回	5/28	授業展開の工夫/ 教育の技術	系統学習と問題解決学習 新学習指導要領の概要 / 教育の技術を学ぶために必要なこと	
第9回	6/4	情報と教育	情報教育、情報処理教育、コンピュータ教育、ICT教育	
第10回	6/11	教育と機器	視聴覚機器とその活用、コミュニケーションと教育機器	
第11回	6/18	教育と環境	個別指導と一斉授業、道具としての応答する環境	
第12回	6/25	学習と環境	対面学習と個別学習、学習の形態と理解との関係	
第13回	7/2	知識と環境	ICT教育における知識の位置づけ、知識の役割と学習指導要領	
第14回	7/9	理解と環境	ICT教育における理解の位置づけ、体験型学習との関係	
第15回	7/16	家庭生活と学校生活	教科の特性と教育の技術としての限界/まとめにかえて	
履修条件	情報リテラシー ・ を履修済みであることが望ましい			
予習・復習	予習として、指定内容を調べておくこと。復習は授業内容をノートへ整理する。			
テキスト	学習指導要領(小・中) (このほかに必要なレジュメを用意する)			
参考書・参考資料等	授業を進める中で随時紹介する			
学生に対する評価	学習態度(20%)、話し合いへの参加(30%)、レポート(50%)により総合的に評価する			

授業 科目名	道徳・総合的な学習・ 特別活動論 Morale Education / Integrated studies / Extra- curricular Activities	履修年次:	単位数:	担当教員名: 科目責任者 広川 由子 (研究室 図書館棟 10) 寺田佳孝 (非常勤講師室)
		自由: 栄 2 年 (教職課程選択者必修)	1 単位 30 時間 コード: NTT401	
〔DP〕 . 健康づくりの実践 . 他職種との協働 . 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業では、これまでの学修をふりかえりつつ、栄養教諭としての自己の力量を確認し、不足している知識や技能を補うことを目的とする。本授業の到達目標は、教員として求められる 使命感や責任感、教育的愛情、社会性や対人関係能力、児童・生徒を理解する能力および生徒指導力、栄養教諭の専門的知識、「食に関する指導」力を獲得し、子どもたちを前に実践できるようになることである。				
〔授業の概要〕 本授業は、教職に関する科目担当教員(広川)と、栄養に係る教育に関する科目担当教員(鈴木)がオムニバスにて行う。大学4年間で学んだ教職に関する知識の整理統合を図り、現場に立つ教員として求められる最低限必要な資質能力が身に付いているかどうかを学生および教員が相互に点検し、自己の到達点を自覚する。さらにそれを補いつつ、生涯にわたって学び続けるスキルを獲得する授業を提供する。学校訪問やロールプレイング、現職教員および教職経験者を交えた討論等により、実際に教壇に立つための実践力と問題解決能力を養う。				
キーワード: 栄養教諭、資質・能力の向上、ICT 活用力、チーム学校、教育 DX				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回 (45分)	5/30	道徳科の誕生	いじめ・情報モラルの現状	広川由子
第2回	6/6	道徳科の授業実践	模擬授業とグループ討論	広川由子
第3回	6/13	道徳科の授業実践	模擬授業とグループ討論	広川由子
第4回	6/20	道徳科の授業実践	模擬授業とグループ討論	広川由子
第5回	8/21 2限 (詳細は授業にて周知)	総合的な学習の時間の授業研究	教材研究とグループ討論	寺田佳孝
第6回	8/21 3限 (詳細は授業にて周知)	総合的な学習の時間の授業研究	教材研究とグループ討論	寺田佳孝
第7回	8/21 4限 (詳細は授業にて周知)	特別活動の授業研究	教材研究とグループ討論	寺田佳孝
第8回	8/21 5限 (詳細は授業にて周知)	特別活動の授業研究	教材研究とグループ討論	寺田佳孝
履修条件	教職課程履修者			
予習・復習	予習としてテキスト及び配布資料を熟読のこと。復習はテキスト及びレジュメ・配布資料にて授業を振り返りつつ、ノートに内容を整理した後、課題・レポートに取り組むこと。			
テキスト	『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編』 / 『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総合的な学習の時間編』 / 『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別活動編』			
参考書・参考資料等	授業内で適宜、資料を配布する。			
学生に対する評価	学習態度(20%)、ディスカッション(30%)、課題・レポート(50%)による総合評価。			

授業 科目名	生徒指導論 (Student guidance)	履修年次: 自由: 栄3年 (教職課程選択 者は必修)	単位数: 1単位 15時間 コード: NTT204	担当教員名: 橋本和幸 (研究室: A209)
〔DP〕 . コミュニケーション能力 . 健康づくりの実践 . 他職種との協働				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 生徒指導とは、一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。 この授業では、他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付けることをめざす。				
〔授業の概要〕 生徒指導の意義、原理、進め方を説明する。そして、児童生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を説明する。また、いじめ・校内暴力等に関して、校則・懲戒・体罰等の生徒指導、暴力行為・いじめ・不登校等、インターネットや性に関する課題、児童虐待への対応等について説明する。さらに、指導の面接を行う際に、身に着けると良い技法を紹介する。				
キーワード: 反社会的行動、非社会的行動、面接技法、チーム対応				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第1回	4/11	対象となる問題行動	暴力、いじめ、非行、家庭の問題、学級崩壊など	
第2回	4/18	対象となる問題行動	不登校、精神疾患、自傷、発達障害など	
第3回	4/25	指導面接の技法	面接の目標設定、準備、問題の見立て方	
第4回	5/2	指導面接の技法	児童生徒の話を聴く方法	
第5回	5/9	指導面接の技法	効果的な質問方法	
第6回	5/16	指導面接の技法	児童生徒の変化する意志を育てる方法	
第7回	5/23	指導面接の技法	事例の紹介	
第8回	5/30	チーム対応による生徒指導	複数の教職員で対応する方法	
履修条件	特になし。			
予習・復習	予習: テキストを読み込む。復習: 講義内課題に取り組む。			
テキスト	「相談・指導のための面接技法(第2版)」橋本和幸著、ムイスリ出版、2024			
参考書・参考資料等	「生徒指導提要」文部科学省、2022年。その他は授業の中で適宜紹介する。			
学生に対する評価	講義内課題 50%、筆記試験 50%			

授業 科目名	教育相談 (Educational Counseling)	履修年次: 自由: 栄2年 (教職課程選択 者は必修)	2単位 30時間 コード: NTT302	担当教員名: 橋本 和幸 (研究室 A209) [臨床心理士、公認心理 師、学校心理士]
〔DP〕 実践に必要な知識, 倫理観とプロフェッショナリズム, 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 教育相談とは、児童・生徒、その保護者、教職員を対象に行われる、学校教育に関する相談活動のことである。この授業では次の2点を目標とする。 教育相談が、『どこで』『誰が』『何を』『どのように』行うものかを理解し説明できること。 利用者(児童・生徒・保護者・教職員)の立場から見た教育相談を理解し説明できること。				
〔授業の概要〕 授業担当者が学校や教育相談所などの現場で行った実践に基づいて、「教育現場において生じる問題及びその背景」と「教育現場における心理社会的課題及び必要な支援」について説明する。 そして、教職員が問題解決のために行う教育相談活動について説明する。				
キーワード: スクールカウンセリング、特別支援教育、教育心理学、臨床心理学				
〔授業計画〕				
回数	日付	テ - マ	内 容	
第1回	11/22	教育相談とは	授業の進め方や教育相談の定義や歴史などについて説明する。	
第2回	11/29	学校内の教育相談体制	学校内で教育相談体制がどのように作られるかを説明する。	
第3回	11/29	学校外の教育相談体制	学校外で教育相談を行う専門機関について説明する。	
第4回	12/6	心理アセスメント	問題行動をアセスメントする面接法と観察法を説明する。	
第5回	12/6	心理検査	問題行動をアセスメントする検査法を説明する。	
第6回	12/13	心理面接	教育相談を行う際の面接技法について説明する。	
第7回	12/13	いじめへの対応	事例を用いていじめへの対応方法を説明する。	
第8回	12/20	不登校への対応	事例を用いて不登校への対応方法を説明する。	
第9回	12/20	教育相談の実際	学校内外での相談活動について事例を通して紹介する。	
第10回	1/10	発達障害への対応	発達障害と知的障害の概要を説明する。	
第11回	1/10	発達障害への対応	自閉スペクトラム症から起きる学校不応について説明する。	
第12回	1/24	発達障害への対応	ADHDやLDによって起きる学校不応について説明する。	
第13回	1/24	精神疾患への対応	学齢期に発症する可能性がある精神疾患について説明する。	
第14回	1/31	精神疾患への対応	精神疾患から起きる学校不応とその対応例について説明する。	
第15回	1/31	学校事故・事件への対応	学校で発生した事故や事件への対応について説明する。	
履修条件	特になし			
予習・復習	予習: テキストを読み込む。復習: 講義ごとに課題に取り組む。			
テキスト	「専門職のための臨床心理学基礎(第3版)」: 橋本和幸著、ムイスリ出版、2023			
参考書・参考資料等	指定しない。授業の中で適宜紹介する。			
学生に対する評価	講義内課題 15%、レポート 15%、筆記試験 70%			

授業 科目名	教職実践演習（栄養教諭） Practical Training for Teaching Profession (Nutrition educator)	履修年次： 自由：栄4年 (教職課程選択者必修)	単位数： 2単位 30時間 コード：NTT401	担当教員名： 科目責任者 広川 由子 (研究室 図書館棟 10) 鈴木亜夕帆 (研究室 教育棟 A214)
〔DP〕 .健康づくりの実践 .他職種との協働 .生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業では、これまでの学修をふりかえりつつ、栄養教諭としての自己の力量を確認し、不足している知識や技能を補うことを目的とする。本授業の到達目標は、教員として求められる 使命感や責任感、教育的愛情、社会性や対人関係能力、児童・生徒を理解する能力および生徒指導力、栄養教諭の専門的知識、「食に関する指導」力を獲得し、子どもたちを前に実践できるようになることである。				
〔授業の概要〕 本授業は、教職に関する科目担当教員（広川）と、栄養に係る教育に関する科目担当教員（鈴木）がオムニバスにて行う。大学4年間で学んだ教職に関する知識の整理統合を図り、現場に立つ教員として求められる最低限必要な資質能力が身に付いているかどうかを学生および教員が相互に点検し、自己の到達点を自覚する。さらにそれを補いつつ、生涯にわたって学び続けるスキルを獲得する授業を提供する。学校訪問やロールプレイング、現職教員および教職経験者を交えた討論等により、実際に教壇に立つための実践力と問題解決能力を養う。				
キーワード：栄養教諭、資質・能力の向上、ICT活用力、チーム学校、教育DX				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	10/2	オリエンテーション	教職カルテを用いた学修の振り返り	広川由子
第2回	10/9	社会性・対人関係能力	保護者との人間関係構築	広川由子
第3回	10/16	社会性・対人関係能力	地域の関係者との人間関係構築	広川由子
第4回	10/23	教職の意義・教員の役割	子どもの権利（特別講義）	特別講義講師
第5回	10/30	授業づくり・実践	模擬授業とグループ討論	広川由子
第6回	11/6	授業づくり・実践	模擬授業とグループ討論	広川由子
第7回	11/13	授業づくり・実践	模擬授業とグループ討論	広川由子
第8回	11/20	前半授業の振り返り	自身の学びの振り返り	鈴木亜夕帆
第9回	11/27	授業検討	主体的・対話的・深い学び、個別最適、協働的な学びの検討	鈴木亜夕帆
第10回	12/4	教職の意義・教員の役割	教職の未来（特別講義）	特別講義講師
第11回	12/11	個別的な相談指導	子どもと保護者、教職員との連携	鈴木亜夕帆
第12回	12/18	教師自身による「深い学び」の実践	探究の実践	鈴木亜夕帆
第13回	1/8	教師自身による「深い学び」の実践	探究の実践報告	鈴木亜夕帆
第14回	1/15	学校現場の見学・調査	実地研修	鈴木亜夕帆
第15回	1/22	この授業全体のふりかえり	資質・能力の確認とまとめ	広川・鈴木
履修条件	教職実践演習を履修するには、管理栄養士課程の「臨床栄養臨地実習」及び「給食経営管理臨地実習」を修得済みであり、3年次終了までに配当された教職課程の全科目を修得済みであること。且つ、教育実習単位を修得済みであるか、または教育実習履修年度であること。			
予習・復習	予習として配布資料を熟読のこと。復習は、課題・レポートに取り組むこと。			
テキスト	これまでの栄養教諭課程、管理栄養士課程のテキストおよび配布資料。			
参考書・参考資料等	授業内で適宜紹介する。			
学生に対する評価	学習態度（20%） 課題・レポート（40%） 発表・討議（40%）			

授業科目名	栄養教諭教育実習事前・事後指導 (Guidance for Practical Training: Diet and Nutrition educator)	履修年次: 自由: 栄4年 (教職課程選択者必修)	単位数: 1単位 45時間 コード: NTT402	担当教員名: 渡辺 優奈 [管理栄養士、栄養教諭] (教育棟 A214 研究室)
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 倫理観とプロフェッショナリズム, 実践に必要な知識, コミュニケーション能力				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 事前指導においては、教育実習の内容全体を把握し、実習の際に求められる基礎的な事柄を身につけ、自分なりに目標を持つことができる。事後指導においては、実習を通じて学んだこと(優れた点及び反省点)を主体的に振り返り、今後の課題を整理し、実習の意義を理解する。				
〔授業の概要〕 本授業は、教職課程の集大成であり実務の実際を行う「栄養教諭教育実習」のための重要な科目と位置付けられる。事前指導では指導案及び教育媒体を作成し模擬授業を行い、お互いに検討する。事後指導では、報告会を通して教育実習の自己の振り返り及び他履修者と意見交換することで学びを深める。栄養教諭・一般教員の実務経験に基づき教育実習で求められる基本的な事柄や指導案作成についての学習支援を行う。				
キーワード: 栄養教諭、教育実習、事前指導、事後指導、児童・生徒、学校、教員				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	
第1回	別途設定	オリエンテーション	教育実習及び実習ノート・テキストについて	
第2回		教育実習の心構え	栄養教諭教育実習の意義・目的、留意点等	
第3回		栄養教諭教育実習を学ぶ	栄養教諭教育実習の実際について学ぶ	
第4回		児童理解(1)	研究授業の見学、レポート作成	
第5回		児童理解(2)	実習校への事前訪問、アセスメント	
第6回		指導案の検討(1)	カリキュラム立案、指導案作成、板書計画	
第7回		教材研究	授業を実施するための教材研究	
第8回		模擬授業(1)	模擬授業とフィードバック	
第9回		模擬授業(2)		
第10回		指導案の検討(2)	第1案の振り返り、第2案の作成	
第11回		事前指導	実習後の提出物、実習中の大学との連絡方法等の緒注意	
第12回		事後指導	お礼状の作成、事後のまとめ、報告会等オリエンテーション	
第13回		報告会の準備	プレゼンテーションのまとめ、発表準備	
第14回		教育実習報告会	発表、模擬授業の実践と意見交換、次年度生への伝達指導	
第15回		まとめ	実習報告書のまとめ、個人での振り返り	
履修条件	管理栄養士課程「臨床栄養臨地実習」「給食経営管理臨地実習」の単位及び3年次までに配当された栄養教諭に関する科目の単位を修得済みであること			
予習・復習	教材研究や指導案作成等のため、予習・復習に本授業の2倍程度の時間を要する			
テキスト	教育実習ノート(大学作成)、その他プリントなど			
参考書・参考資料等	文部科学省「学習指導要領」「食に関する指導の手引(第二次改訂版)」など			
学生に対する評価	事前・事後学習での授業態度(40%)、模擬授業・事後報告会での発表(40%)、レポート等の提出物の内容(20%)により総合的に評価する			

授業科目名	栄養教諭教育実習 (Practical Training: Diet and Nutrition educator)	履修年次: 自由: 栄4年 (教職課程選択者 必修)	単位数: 2単位 90時間 コード: NTT403	担当教員名: 渡辺 優奈 [管理栄養士、栄養教諭] (教育棟 A214 研究室)
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識, コミュニケーション能力, 多職種との協働				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 これまでに学んだ基礎知識を基に、実際の教育現場における10日間の実習を通じて、児童・生徒への接し方、教員として身につけるべき基本的態度、食に関する指導案の作成能力等を修得する。				
〔授業の概要〕 健全な子どもの発育発達のために、栄養教諭への期待は大きい。管理栄養士課程及び栄養教諭課程で学んだ集大成として学校において「栄養教諭教育実習」を行う。実習校の教員と連携して行う実習科目である。主に実習校の指導教員のご指導のもと、創意工夫し、栄養教諭の職務の実際を行う。指導案及び教材を作成し授業を行い、評価、助言など頂く。それを記録し、まとめることにより栄養教諭の実際を理解する。				
キーワード: 栄養教諭、教育実習、児童・生徒、学校、教員				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	
第1～ 第10回	個別に 決定	実習校でのオリエンテーション	学校経営、公務分掌の理解、服务等	
		児童及び生徒への個別的な相談、指導の実習	指導、相談の場の参観、補助等	
		児童及び生徒への強化、特別活動等における指導の実際、その理論と技法についての実習	学級活動及び給食の時間における指導の参観、補助	
			教科等における教科担任等と連携した指導の参観、補助	
			給食放送指導、配膳指導、後片付け指導の参観、補助	
		食に関する研究授業の実施	児童生徒集会、委員会活動、クラブ活動における指導の参観、補助	
			指導計画案、指導案の立案作成、教材研究等	
			事前指導	
食に関する指導の連携、調整の実習	研究授業の実施			
	指導教諭等による研究授業の総評、事後指導			
履修条件		管理栄養士課程「臨床栄養臨地実習」「給食経営管理臨地実習」の単位及び3年次までに配当された栄養教諭に関する科目の単位を修得済みであること		
予習・復習		予習: 実習校での実習把握や指導案作成に10時間程度、復習: 実習ノートのみまとめ等に5時間程度が必要である		
テキスト		教育実習ノート(大学作成)、その他プリントなど		
参考書・参考資料等		文部科学省「学習指導要領」「食に関する指導の手引(第二次改訂版)」など		
学生に対する評価		実習への完全参加が基礎条件。実習校からの評価(80%)と実習ノートの内容(20%)により総合的に評価する		